

MRI検査の説明と同意書

検査予定： 年 月 日 時 分

患者氏名： 様

MR Iは強い磁石と電磁波を使って、検査を行う為特別な注意が必要です。

<MR I 検査の危険性について>

体内および体外の電子機器はMR I 検査によって破損や誤作動を起こすことがあります
体内に金属がある場合、画像のゆがみにより十分な検査が出来ない事があります
入れ墨やアートメイクは火傷や変色の可能性があります
妊娠初期（14週未満）の方は十分な安全が確認されていないため注意が必要です

<造影剤の危険性について>

重症腎機能障害（透析中も含む）の方には使用できません

造影剤の使用により副作用が出現する事があります

（軽度）吐き気、蕁麻疹、発疹など

500~1000人に1人

（重度）血圧低下、息苦しさ、意識不明

数万人に1人

非常に低い確率で死亡に至った例もあります

数十万人に1人

造影剤が血管外に漏れ、注射部位が腫れて痛みを伴うことがあります

<MR I 検査同意書>

私はMR I 検査を受けるにあたり、検査の目的や注意事項について説明を受け納得しましたのでMR I 検査を受けることに同意します。

承諾日： 年 月 日

患者氏名 (署名) _____

親族氏名 (続柄) (署名) _____

上記患者に対して、私が検査・処置に関する説明を行い、本文書において同意されたことを確認しました。

確認日： 年 月 日

(医療機関) _____ (医師名) _____

MRI検査の説明と同意書 <患者控え>

検査予定： 年 月 日 時 分

患者氏名： 様

MR I は強い磁石と電磁波を使って、検査を行う為特別な注意が必要です。

<MR I 検査の危険性について>

体内および体外の電子機器はMR I 検査によって破損や誤作動を起こすことがあります

体内に金属がある場合、画像のゆがみにより十分な検査が出来ない事があります

入れ墨やアートメイクは火傷や変色の可能性があります

妊娠初期（14週未満）の方は十分な安全が確認されていないため注意が必要です

<造影剤の危険性について>

重症腎機能障害（透析中も含む）の方には使用できません

造影剤の使用により副作用が出現する事があります

（軽度）吐き気、蕁麻疹、発疹など 500～1000人に1人

（重度）血圧低下、息苦しさ、意識不明 数万人に1人

非常に低い確率で死亡に至った例もあります 数十万人に1人

造影剤が血管外に漏れ、注射部位が腫れて痛みを伴うことがあります

<MR I 検査同意書>

私はMR I 検査を受けるにあたり、検査の目的や注意事項について説明を受け納得しましたのでMR I 検査を受けることに同意します。

【お知らせ】

同意の意思、日付、場所、署名が記載された原本は、松山赤十字病院にて保管いたします。
当説明書兼同意書は、患者控えとなります。

原本(写)が必要な際は、病院職員までお声がけ下さい。

同意しました。

上記患者に対して、私が検査・処置に関する説明を行い、本文書において同意されたことを確認しました。

確認日： 年 月 日

（医療機関）

（医師名）

MRI検査の問診票

| | | |
|------|-----------|-------|
| ID | | 最新の体重 |
| 氏名 | | kg |
| 検査予定 | 年 月 日 時 分 | |

問診票運用の注意事項

問診日より3か月が過ぎた場合、必ず検査当日に変更が無いかを確認し、検査当日確認欄に日付を記入してください

検査当日確認 ()

検査を安全に行うために、以下の質問にお答えください。ご不明な点は、医師もしくは看護師にお尋ねください。

- 今までにMRI検査を受けたことがありますか いいえ はい
はいと答えた方、MRI検査は造影剤を使用しての検査でしたか いいえ はい
- 体内に心臓ペースメーカー、植え込み型除細動器等ありますか 無 有
- 体内に人工内耳、神経刺激装置等ありますか 無 有
- 脊柱管内リード線、脊髄刺激装置等ありますか 無 有
- 今までに手術や外傷などで体内に金属が入ってますか 無 有
体内金属がある場合具体的に教えてください ()
- 入れ墨、アートメイク、圧可変式V-Pシャント等ありますか 無 有
- 閉所恐怖症はありますか 無 有
- 女性の方で現在妊娠、妊娠の可能性ありますか 無 有

----- 以下の項目は造影MRI検査をされる方のみお答えください -----

- 今までMRI検査で造影剤を使用して、副作用はありましたか 無 有
有と答えた方、どんな副作用でしたか： 発疹 かゆみ 吐き気 嘔吐 頭痛 その他 ()
- 腎臓の働きが悪いと言われたことはありますか 無 有 透析中
- 今までに喘息（ぜんそく）と言われたことがありますか 無 有
- アレルギー体質や、アレルギーの病気はありますか 無 有

記入日： 年 月 日

患者または家族代理人の署名 (続柄：)

上記2～4の問診において「有」にチェックがある場合は、MRI検査は出来ません

上記5～12の問診において「有」にチェックがある場合で、MRI検査及び造影MRI検査を行う場合、必ず注意事項と検査の必要性を説明したうえで () 内にOKと記載してください ()

問診の内容を検討した結果、

- 単純MRI検査
 造影MRI検査

に支障がないものと判断します。

確認日： 年 月 日

(医療機関) (医師名) (印)

MR I 検査を受けられる方へ

【MRI検査とは】

MRIは強い磁石と電磁波を使って、身体の内側の状態を診る検査です。検査は狭いトンネルの中に入り、大きな音のなかで行います。（音はヘッドホンや耳栓で軽減いたします。）通常の検査時間は約20分程度で、検査中は体を動かさない様にしてもらいます。MRI検査を安全に行うために、以下の注意事項をお読み下さい。

【MRI検査の注意事項】

★MRI検査は強力な磁気を使用する検査ですので、金属類には特別な注意が必要です。

1. 以下に該当する方は検査が出来ない事があります。

※事前にお知らせ下さい。

- ・体内および体外に電子機器のある方
（心臓ペースメーカー、植え込み型除細動器（ICD）、両心室ペースメーカー（CRT）、人工内耳、インスリンポンプ、神経刺激装置、脊柱管内リード線、脊髄刺激装置）
- ・体内に手術や事故等で金属類の存在する可能性のある方
（インプラント、ステント、脳動脈クリップ、刺青、アートメイク等）
*刺青はやけどや変色の可能性があります。
- ・妊娠初期（14週未満）の方
- ・閉所恐怖症の方

2. 以下の該当するものを付けている方は検査が出来ないことがあります。

※事前に取り除いて頂きます。

- ・酸化鉄が含まれているアイメイクや増毛スプレーを使用の方。
*化粧品のなかに金属を含んでいるものがある為、化粧を落としていただくことがあります。特にアイシャドウ・マスカラの使用はお控えください。また、一部の増毛スプレーにも酸化鉄を使った物がありますので検査当日はお控えください。

3. 以下に挙げるものは、検査室に持ち込めません。

※事前に取り外して頂きます。

- ・金属類（携帯電話、腕時計、補聴器、入れ歯、ヘアピン、ネックレス、指輪、ピアス、湿布、エレキバン、使い捨てカイロ、発熱繊維の肌着ヒートテック等）
- ・磁気カード・ICカード（クレジットカード、キャッシュカード、電子マネーカード等）
- ・コンタクトレンズ（検査当日はケースをご持参いただくか、眼鏡をご使用下さい。）

MR I 用造影剤使用（注射）検査を受けられる方へ

1. MR I 用造影剤とは？

MR I 検査は造影剤なしでもできますが、MR I 用の造影剤は静脈注射をしながら行うことにより体の様子をより詳しく知ることができます。病気の種類によっては造影剤を使用して初めて診断可能なものも多いのです。

2. 造影剤注射時には、

- ① 体が熱くなることがありますが、直接の刺激であり心配いりません。
- ② 血管外に造影剤が漏れ、注射部位がはれて痛みを伴うことがあります。基本的には時間と共に吸収され、体外へ排出されるので問題ありません。ただし、漏れた量が非常に多い場合には、別の処置が必要となることもあります。

3. 副作用の種類や発生頻度は？危険を予め知る方法は？

MR I 用のカドリニウム造影剤は安全な薬ですが、他の薬と同様に副作用が出現することがあります。

〈軽症〉吐き気、蕁麻疹、発疹など（500～1000人に1人）。
多くは心配ありません。

〈重症〉血圧低下、息苦しさ、意識不明（数万人に1人）。
点滴、昇圧剤、抗アレルギー薬などの治療が必要です。極めて希ですが死亡に至った例もあります。（数十万人に1人）。
残念ながら、こうした副作用がいつ発生するかを事前に知ることはできません。
また前回の検査の際には異常がなくても、今回副作用が出ることもあります。

4. 造影剤にはこうした副作用がありますが、主治医はあなたの病気を診断し治療するうえで、造影剤を使用した検査が非常に重要であると考えています。

注射に同意されれば、別紙の同意書に署名、捺印のうえ検査当日にお持ち下さい。

なお、患者さんが未成年や意識障害のある場合は家族や代理の方でも結構です。

また、印鑑がない場合は署名（自署）だけでも有効とします。

5. もし造影剤の注射に気が進まなければ、得られる情報は減りますが造影剤を使用せずにMR I 検査を行いますので、当日検査担当医におっしゃって下さい。またアレルギー体質の方や、持病によっては副作用が出やすいこともあるので、当日の検査担当医の診断で注射しない場合もあります。これについては検査前に確認させていただきます。